エネジンが本社に導入したV2Hシステムを説明する担当者＝11日午後、浜松市中区

V2Hモデル提案

エネジン

EV⇄オフィス 電力活用

LPガス販売のエネジン（浜松市中区）は、電気自動車（EV）をオフィスなどの電力システムにつなぐV2H（ヴィークル・トゥ・ホーム）システムの新たな利用モデルを提案し、普及に力を入れる。同区の本社にV2Hと太陽光発電を導入し、12月から稼働を始めた。

非常時は従業員のEVから電力を確保できるようにし、平時はV2Hを通じてEVを無料充電できる社内制度を整えた。自社での活用実績を踏まえ、エネルギーの効率的な利用や事業継続計画（BCP）のモデルとして、中小企業のオフィス向けに年間10セットの販売を目指す。

導入したシステムは、満充電（バッテリー残量50％時）のEV1台で照明やパソコンなど計約4千ワットを約12時間使用できる。夏場など、電力の使用量が増える時間帯にEVから送電してピークを抑えることで、同社の場合は電気料金を年間約4万円抑える効果もあるという。

総工費はニチコン製のV2H装置や出力9キロワットの太陽光発電を含めて計約400万円。藤田源右衛門社長は「V2Hの運用方法をひと工夫した。EVを活用するモデルとして広めたい」と強調した。

（浜松総局・白本俊樹）

2023年（令和５年）12月12日（火）静岡新聞